新交響楽団第31回定期演奏会

指揮　芥川也寸志

1．スペイン狂詩曲
Espana Rhapsody

エマニエル・A.・シャブリエ
Emmanuel A. Chabrier

2．交響組曲「キージェ中尉」、作品60
「Lieutenaut Kijé」Suite Symphonique, op60

セルゲイ・プロコフィエフ
Sergey Prokofieff

I．キージェの誕生
The Birth of Kijé
II．ロマンス
Romance
III．キージェの結婚
Kijé's Wedding
IV．トロイカ
Troika
V．キージェの埋葬
The Burial of Kijé

3．交響曲　第2番　ニ長調　作品43
Symphonie Nr. 2 D-dur, op43

ヤン・シベリウス
Jean Sibelius

第一楽章：アレグロット
I．Allegretto
第二楽章：テンポアンダンテ、マ ルバート
II．Tempo Andante, ma rubato
第三楽章：ヴィヴァーチシモ
III．Vivacissimo
第四楽章：フィナーレ〔アレグロ・モデラート〕
IV．Finale：Allegro moderato

1976
1975年3月29日(月) 午後7時 ——— 郵便貯金ホール



ごあいさつ

理事長　松木英作

私達新交響楽団は皆様の温かい御支援のもとに本年で満20年になりました。

一口に20年といってもその歩みは常に順風満帆のものではありませんでした。常に大きな難問を持ち、それを一つ一つ解決してきたわけなのです。私達のオーケストラをここまで発展させてきたのは、芥川先生をはじめ多くの指導者の方々、団員の献身的な努力だけでなく、私達の活動を見守ってくださっている皆様方の御支援のたまものと感謝しているしだいです。新響はこれからも、アマチュアオーケストラの抱えている共通の問題を解決しながら、前進せねばなりません。私達は今、新響の活動の場をこれからもっと拡大して、より大勢の方々に私達の演奏を聞いてもらいたいと思っています。さらに皆様の御希望にそえる様な活動もしてみたいと思っています。それからより広範囲に、より意欲的な曲もとり上げ、演奏の内容もより高度になる様にしたいとも夢をえがいている訳です。この夢を実現させるにはいままでより以上の努力と、皆様の御援助がぜひとも必要になってくる訳です。これからも、皆様と新響を結ぶパイプを太くして、新響の発展の為に皆様の御支援、御批判が、活動の中に生かされる様に努力していきたいと思っています。これからの新響の「演奏」に御期待ください。

スペイン狂詩曲　　シャブリエ

1883年、スペインに旅してのち書いた「エスパーニャ」がシャブリエを有名にした。しかし、我々の国で彼の曲は殆ど演奏されず、されてもこの曲が「楽しい行進曲」で、これ等は楽しい曲だから彼は一部の〝音楽通〟に軽んじられている。フランスでは印象派音楽の先駆者と奉られ、ラヴェルをして影響を告白せしめているので彼は別の〝音楽通〟から一目置かれている。

ところで、「どのスペイン舞踊のなかにも、ある麻痺状態がある。それは熱狂と眠りの結合である。踊り手たちはいつも自分たちの叫び声で目を覚ましつつあるように思える。彼らは足を踏み鳴らし、両腕をまくり上げ、体をそらし、互いにはげまし合うために罵声を投げつけ合う。しかし彼らの旋回はぐったりしたままである。出だしはすべて足踏みで終ってしまう。かけ声はのどの奥で抑えられる。顔つきから真剣さを消すことはできない」（モランジュ著「ラヴェルと私たち」）、この曲にこうしたもの憂い、「痺れのなかの扇動」ともいうべき熱情的官能はまったくない。

しかし、わきたつ激しいリズム、のびやかな旋律は聴き手にスペインを確かに感じとらせ、更になによりも微塵の影もみられない明るさと、ちりばめられた色彩のきらめきが、天候にめぐまれたフランス人シャブリエさんのスペインの旅の解放的な気分を思わせる。

シャブリエの音楽は衒ったところがなく真直ぐで明朗、しかも個性が強い。裏の音までよく喋るから人によっては耳障りな、と思うかもしれないが、曲の流れに身をまかせていれば私たちは、彼と一緒にスペインの市場の雑踏を歩き、闘牛とジプシーの踊りを見物し、地酒を飲み、ぬけるように青い空の豊かな太陽の光に目をしばたたかせ、たたみかけるように曲が終ると互いに旅の印象を胸に刻むことになる。

1870年代から20世紀にかけてのフランスの音楽家は多かれ少なかれ、R・ワーグナーの影響下にあった。およそワーグナーとは縁遠い、狂詩曲「スペイン」を書いたシャブリエも、大学で法科をやり内務省へ務め音楽においてアマチュアであったが、ワーグナーの「トリスタン」を聴き衝撃を受け感動したあげくに〝音楽家〟となった。

合唱団「鯨」演奏会

日時・会場　4月23日（金）午後7時・文京公会堂
曲　目　シューベルト　ミサ曲第6変ホ長調
（指揮　エルビン・ボルン）
フォーレ　レクイエム（指揮　中村 健）
管弦楽　新交響楽団
入場料　S：1000　A：800　B：600（全席指定）
問い合せ先　合唱団「鯨」事務所　tel. 357−5255
（火曜午後のみ）

最近の主な演奏会

1975年
○6月1日　第29回定期 渋谷公会堂　「ストラヴィンスキー三部作」
○8月9日　サマーコンサート　東京文化会館大ホール
「こうもり」序曲他＝ヨハン・シュトラウス ラテンアメリカンシンフォニエッタ＝モートン・グールド
組曲「展覧会の絵」＝ムソルグスキー（ラベル）
○10月19日　第30回定期　日比谷公会堂　指揮：山岡重信　独奏：前田信吉　大学祝典序曲＝ブラームス　Fg.協奏曲＝モーツァルト
交響曲第4番「ロマンチック」＝ブルックナー
○12月8, 9日　郵便貯金ホール
フィンランディア＝シベリウス　交響曲第9番＝ベートーベン

交響組曲「キージェ中尉」

プロコフィエア

革命にわきかえるロシアを後にして亡命、十数年間各国を転々として暮し1933年、プロコフィエフはソ連に帰還する。

そして彼は最初の仕事として映画「キージェ中尉」の音楽を作曲した。

映画の筋は帝政ロシアの貴族社会の無知無能を諷刺した喜劇的内容のものである。

「皇帝ニコライ一世は、多少神経衰弱にかかっていて、ある日昼寝をしていると、宮廷内のどこかで女官の悲鳴がしたので目をさます。皇帝が癇癪を起し『見廻りの責任者はたれか』と侍従にきくので、侍従はあわてて書記のところへ行き当番の将校の名簿をもらってくると、これにはまだ中尉という位しか記入されていない。皇帝の前で報告しかけた侍徒は『中尉……』とまで読んで口ごもり『……ですが』と言ってしまう。このポルーチキ・ジェを皇帝はポルーチク・キージェと聞き違え、「キージェ中尉か」という訳でここに架空の人物キージェ中尉ができあがり、彼は逮捕され、シベリア流刑となる。しかしさらに神経衰弱のこうじた皇帝は、キージェ中尉が忠義の士で、暗殺者から自分を守ろうとして侍女に悲鳴をあげさせ、眠りからさめさせたのかもしれないと考え、キージェをシベリアから呼びもどすため侍徒を派遣する。そしてキージェに美しい女官が妻として与えられる。侍徒たちは実在しない人物と、女官の結婚式を挙行するはめになる。また、さまざまな珍事件が架空のキージェをめぐって起るので、ついにもてあました侍徒はキージェ中尉が死んだことにして、おごそかな葬式をだす。キージェを実在の人物と思いこんでいる皇帝は、この葬列を露台の上から見送って、忠義の士の冥福を祈る」

(「名曲解説全集」音楽之友社より)

プロフィエフは映画の中から主題を選び五曲にまとめ、交響組曲とした。皮肉でユーモアにあふれた音楽は彼の得意とするところで、ロシア的哀愁を漂わせた第二曲や、弦のピッチカートによるバラライカ風の伴奏のついた第四曲など、どれも楽しさに満ちた佳曲である。

交響曲第２番　ニ長調

シベリウス

シベリウスは生涯に七つの交響曲を書いた。（第八第の交響曲が存在するという噂がある。クーセヴィツキーやオーマンディに至っては肉筆草稿を見たとまで言っているそうだ）

その中でこの交響曲は最も人気があり、広く、頻繁に演奏されている。彼の作品のうち、けっして最上のものとは言いがたいこの曲が好かれる理由は何だろう。

現在シベリウスの作品は、「フィンランディア」「悲しい円舞曲」「トゥオネラの白鳥」「カレリア組曲」「ヴァイオリン協奏曲」等、第三交響曲より以前のものばかり多く演奏され、以後のものはレコードで聴くことができる外、ほとんどと言ってよい程演奏されない。

第三交響曲以後彼の作風は一線を画し、余剰を排した簡潔な表現へと推移していき、ロマンティックなものから古典的といってよい、しかも彼独自の世界を展開するようになる。

そのあたりに立って第二交響曲を眺めると、一際強い郷土性（フィンランド）を持ち、第二楽章に聴かれる何か分らないが暗く重たいものの炸裂するような金管の響きや、終楽章の始めに現われる「恋愛映画」のクライマックスにでも出てきそうな弦楽器群による旋律など、人の心に直接訴える力の強い音楽であることが分る。

第一楽章は素材が豊富なわりに簡潔な印象を与え、全楽章のうちで最も、初期のシベリウス的色彩が濃い。

第二楽章はラプソディックで、出だしの低弦によるピッチカートは寒い北の原野を連想させ、その後弦の美しく静かな歌と金管群の咆哮とが繰返される。

第三楽章はスケルツォであり、A－B－A－Bという型がとられ、切れ目なく第四楽章に突入する。雄大な感じのする楽章で、最後にはコラール風の旋律が高くうたわれ終結する。

新響・団員募集!!

入団希望者に対しては原則として月の最終日曜日の午后オーディションを行い新響のレベル、パート人員の必要度、本人の環境、入団意志などを考慮して決定します。

〈オーディション課題曲〉

Vn　モーツアルト　協奏曲No5,1楽章
Vla　エックレス　ソナタ2楽章
Vc　バ　ッ　ハ　無伴奏組曲第1番より「プレリュード」と「クーラント」
Cb　カプッツィ　協奏曲1楽章
El　モーツアルト　協奏曲二長第1楽章
Ob　ヘ　ン　デ　ル　ソナタNo1,1楽章
Fg　モーツアルト　協奏曲1楽章
Hr　ヒンデミット　ソナタ第3楽章
Tp　ハ　イ　ド　ン　協奏曲1楽章
Tb　R.コルサコフ　協奏曲1,2楽章
Tub　ワーグナー　マイスタージンガー

〈問合せ先〉　①団員をご存知の方は団員を通して　②それ以外の方は都河(468-4703)まで

